

# ○●城山界限お散歩日記●○

先日、12月9日（日）に「ちくさ・文化の里づくりの会」主催の「相応寺のつどい」に参加してきました。



末森城址のからぼりを散策

当日は、8:30～まち歩きがあり、寒い中、多くの方々が参加されており、驚きました。

まち歩きは、「紅葉の名所めぐり」と「末森城址を探索」の二種類があり、私は、「末森城址を探索」の方に参加しました。

末森城は、天文16年（1548年）に織田信長の父、信秀が築城したものです。現在の城山八幡宮がある一帯が末森城址で、神社の前の南広場が本丸址、昭和塾堂付近が二の丸址です。

まち歩きは、城山八幡宮前から出発し、末森城のからぼりを散策しました。からぼりを含め、城山八幡の周辺は自然が残っていて、まんがなどに出てくる裏山といった感じで、都会の中で自然に触れられる貴重な場所だと感じました。



塔が印象的な昭和塾堂

その後、昭和3年（1928年）に愛知県により建てられた昭和塾堂を外観から見学しました。「人づくりの殿堂」として建てられたということで、「人」という漢字の形を用いた平面プランで設計されている帝冠様式の建物で、和風とも洋風ともいえないとても不思議で面白い建物でした。近づいてみると、アーチの窓や細かい装飾が素敵でした。

その後、焙烙道（ほうろくみち）という豊田市当たりから焙烙という素焼きの平たい土鍋を名古屋城下へ売りに来た人たちが通ったことからその名がついたといわれるとても細い道を通り、相応寺まで歩きました。



清水の舞台を模した舞台のある相応寺

相応寺は、寛永20年（1643年）に尾張藩初代藩主と徳川義直が、生母お亀の方のために名古屋市東区山口町に創建、昭和7年（1932年）に現在の千種区城山町に移築されたお寺です。相応寺は、高台にあり、本堂からの眺めは、最高です。ちなみに、相応寺は、名古屋市登録地域建造物資産第18号となっています。

まち歩きの後は、「相応寺のお宝拝見」が行われ、義直公が描いたと伝わるお亀の方の絵や、お亀の方の葬列の様子を書いた軸などが公開されました。



歴史講演会の様子

お宝拝見の後は、中京大学文学部教授の村岡幹生先生による歴史講演会があり、先生が最近発見した古文書から判明する新事実についてお話いただきました。先生によると、天文16年の時点で信長の父、信秀が岡崎城を奪い、松平広忠（家康の父）は織田に屈服したと古文書から読めるということで、そのことから考えると、竹千代（家康）が今川へ人質として送られる途中、織田方に奪われたのではなく、松平広忠（家康の父）は、織田に屈服しており、始めから竹千代（家康）を織田方に人質として差し出したのではないかという話でした。古文書の解説を含む、専門的な歴史のお話で、このようなお話を多くの方が聞いているということに城山・覚王山界限の文化力の高さを感じました。

地域の人たちの手でこのような文化的な催しが行われていることがとても素晴らしいことだと感じた一日でした。

（ M.Y ）